

## ナポレオンのデスマスク

会員 船嶋 貴史



### 1 デスマスクとの出会い

弁護士登録から半年以上が過ぎ、これまでの生活とは大きく変わった。今まで自分とは関わることのなかった方々とお会いすることや、突然のトラブルに四苦八苦しなごう対処しなければならぬ日々を送っている。また、もともと私はスポーツライターになりたいという漠然とした夢があったが、今回ご縁があつて『LIBRA』に寄稿することにもなり、ある意味一つの夢を叶えることができた。司法修習生の頃の生活とは大違ひである。

弁護士登録から毎日が刺激的であるが、私生活でも最近衝撃を受けたことがある。ナポレオンのデスマスクを見たことである。国立新美術館で催されていた『ルーヴル美術館展』で展示されていたそれは、ナポレオンが歴史上の架空の人物ではなく本当に存在していたことを私に見せつけるかのようであった。

### 2 デスマスク作成の経緯

ナポレオンについては改めて説明する必要はないと思われるが、下級貴族出身であったにもかかわらず類稀なる軍事的センスを持っていたため数多の武勲を挙げ、フランス革命後に皇帝となり、フランス民法典を編纂させ、最後は流刑先のセントヘレナ島でその生涯を終えた人物である。

ナポレオンは、1821年5月5日にその生涯を終えると、主治医であったバートンが石膏でデスマスクを作成した。しかし、同じ主治医であったフランチェスコ・アントンマルキがデスマスクの顔の部分だけを持ち去ってしまった。その12年後、アントンマルキがデスマスクの複製を作成し、販売を始めた。この購入者の1人にオルレアン家出身の国王ルイ＝フィリップ

がいる。彼はナポレオン支持派の知識人や一般民衆から支持を得るために購入したのだという。このルイ＝フィリップが購入したデスマスクが今回展示されていた（「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」公式ウェブサイトより（<http://www.ntv.co.jp/louvre2018/gallery/chapter02/>））。

### 3 偶然を大事に

私はもともとナポレオンのデスマスクを見るために『ルーヴル美術館展』に赴いたわけではなく、デスマスクとの出会いは本当に偶然であった。絵画「アルコレ橋のボナパルト」等見たことある作品が多く展示されている中、それはナポレオンコーナーの締めを飾る展示品として展示されていた。デスマスクで分かるナポレオンの顔は絵画や彫刻で知るナポレオンの顔とかなり似ており、そのことが私にとって200年前にナポレオンが本当に存在していたことを強く感じさせるものだった。もしデスマスク目当てで見に行っていたらここまでの印象は受けなかったのかもしれない。

今回ナポレオンのデスマスクに出会い、ふと偶然というものを考えた。前述のように私はスポーツライターになりたいという漠然とした夢があったが、あるきっかけにより弁護士を目指すようになった。そんな偶然のきっかけにより私の人生は大きく変わった。高校生の頃はまさか自分が弁護士になっているとは全く想像もしていなかった。しかし、10年前には想像もできなかった自分がここにいるのだから、この先起こる偶然の出会いや出来事によって10年後もきっと私が想像できない自分があるかと思うと、これからの10年間とても楽しみに思う。